

静岡県文化施設指定管理業務に関する外部評価委員会の概要及び評価結果(年度評価)

令和5年9月

静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化政策課

1 施設名及び指定管理者名

静岡県コンベンションアーツセンター 公益財団法人静岡県文化財団

2 指定期間

平成4年4月1日～令和9年3月31日(5年間)

3 指定管理業務評価の流れ

- (1) 令和4年度の指定管理業務について、指定管理者が提案内容をどの程度実施したかを明確にするため、指定管理者による自己評価を行った。
- (2) 県では、自己評価と事業実績の内容確認を行うとともに、必要な事項について指定管理者へのヒアリングを行い、県としての評価を行った。
- (3) 自己評価と県評価の内容を客観的に評価して、今後の指定管理業務の改善につなげるため、外部委員からなる評価委員会を開催し、指定管理者及び県へのヒアリングをもとに評価を行った。(開催日 令和5年9月19日)

【外部委員】

氏名	職名
岩崎 邦彦	静岡県立大学 経営情報学部 教授
梶田 美於	梶田美於バレエスタジオ 代表
小島 孝仁	株式会社 CSA 不動産 代表取締役社長
永井 聡子	静岡文化芸術大学 文化政策学部 教授
間宮 純也	有限会社春華堂常務取締役

4 評価結果

(1) 外部委員による評価

ア 総合評価(5段階評価)

令和4年度実績は、評価点「4.2」、「よく実施した」と判断した。

【評価点】

1.0～1.4	1.5～2.4	2.5～3.4	3.5～4.4	4.5～5.0
実施しなかった	不十分な実施だった	概ね実施した	よく実施した	大変よく実施した

イ 評価に関する意見

- コロナ禍を経て、利用者の行動やニーズが従来とは変化する可能性がある。ポストコロナの利用者ニーズや新たな利用者行動に対応するため、「量的指標」から「質的指標」への視点のシフト、財務的指標の採用など、新たな成果指標の設定なども検討する必要がある。
- グランシップを利用する方からは、舞台関係の委託業者に仕事を頼みにくい空気感があり、一緒に舞台を盛り上げようという気持ちがあまり感じられないという声を耳にする事があるため、その点については是非改善されたい。
- コロナの経験は平時には気付かなかった事や先送りにしていた問題にも取り組めた時間にもなったと思う。ただでさえ日常的に行く機会が少ないグランシップが更に足が遠のいた方は多い。これからは守りから攻めに転じて積極的にアピールしてほしい。
- 企画事業の推進には、館オリジナルの企画が必要である。その企画の発信により、鑑賞者が応援者となり、新規開拓も見込める。加えて、貸館事業やカフェなどの利用者の継続性にも繋がり、さらに企画事業の質の向上ともなる。企画のさらなる創造的なラインナップに期待したい。
- コロナ禍で気づけたことが、これからの施設運営や体制、イベントのバリエーションのボリュームアップや変革につながるのではと期待する。親子参加型やマルシェの支援など工夫が見受けられ素晴らしい。演劇の学校訪問も青少年育成や民度を上げる良い取組だと思うので、無理のない範囲で続けてほしい。

(2) 県評価の概要

ア 総評

(公財) 静岡県文化財団は、指定管理業務を適正に実施したものと認められる。

イ 数値目標の達成状況

項目	R4計画	R4実績	達成
グランシップ企画事業鑑賞者数	100,000人	47,662人	×
グランシップ企画事業ネット配信閲覧回数	最終年度 150,000回	1,909,790回	○
グランシップ企画事業県民参加者延べ人数	5,000人	3,365人	×
グランシップ企画事業子ども学生鑑賞・参加者数	10,000人	6,934人	×
グランシップ企画事業再来場希望者率	90.0%	90.5%	○
グランシップ企画事業初体験者率	30.0%	53.5%	○
サポート企業・個人数	最終年度 500団体・人	59	—
人材育成事業参加者数	40人	45人	○
文化芸術分野の一般県民鑑賞・参加貸館催事件数	110件	143件	○
コンベンションの開催件数	45件	38件	×
期間外予約の獲得件数	50件	51件	○

催事開催支援サービス取扱件数	2,000 件	1,552 件	×
催事利用者の来館者数	650,000 人	454,861 人	×
催事利用者以外の来館者数	27,000 人	67,016 人	○
レストラン・カフェ利用者数	23,000 人	14,804 人	×
施設稼働率	80.0%	77.3%	△
施設管理瑕疵に起因する事故	0 件	0 件	○
総エネルギー消費量	▲1.0%	▲6.8%	○
貸館利用者の満足度	86.0%	87.6%	○

※ 「○」 目標達成、「△」 目標達成率 90%以上、「×」 目標達成率 90%未満

〔全 般〕

- ・数値目標全体としては、19 項目中 10 項目が達成した。依然としてコロナの影響を受けて達成できなかった項目もあるが、実績が前年度を大きく上回った項目が多い。
- ・企画事業鑑賞者数が目標に近づけるよう、例えば、友の会の法人会員を増やしたり、協賛・協力してもらえる企業を開拓するなどの工夫に努めていただきたい。

ウ 実施業務別評価

(1) グランシップ企画事業

多彩な文化芸術分野での鑑賞・参加など様々な形での体験

- ・子ども・子育て世代への支援では、県東部や西部地区などで鑑賞機会を提供し、多くの方が音楽や演劇、伝統芸能などに直接触れられる機会をつくった。また、コンサートで親子席を設けるなど、グランシップならではの積極的な支援に努めている。
- ・音楽文化等の普及・振興については、国内外の第一線で活躍するアーティストの公演はもちろん、ジャズ・ロックライブなど、若い世代にも質の高い音楽に触れられる機会をつくり、新たなグランシップファンを増やした。初めてグランシップの公演に参加した方が、今後リピーターとなって、何度も足を運んでもらえるような企画事業を期待する。
- ・伝統芸能の継承については、能楽公演で静岡が舞台の大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」にあわせた静岡ゆかりの演目「小袖曾我」を、静岡能では、徳川家康ゆかりの演目「松風」を上演し、静岡と能の関係をわかりやすく伝える公演を実施し、伝統芸能の継承に努められた。また、普段伝統芸能に触れる機会の少ない子どもたちのために学校訪問し、伝統芸能への興味や理解を深める鑑賞機会の提供に努めた。
- ・「本と音楽の素敵な出会い」は、朗読と音楽双方の魅力を伝える公演をおこない、参加者の多くの方が高い評価をされている。今回がシリーズ 3 回目ということで、文学と音楽のコラボレーションを続けていただきたい。

(2) グランシップ企画事業を支える運営体制

県民参加による運営

- ・サポーター制度では、グランシップの活動を支え、県民が自主的に参加・参画できる場の提供に努めている。サポーター研修や会合をおこない、県民が活躍できる機会を創り出している。
(サポーター数 126 名)

- ・友の会の個人会員は着実に会員数を増やしているが、法人会員をさらに増やせるよう工夫をされたい。（個人会員約 14,000 人。法人会員 22 社）

広報・宣伝

- ・広報に関しては、企画事業の内容やターゲットに合わせて、紙媒体だけでなく、SNS などを効果的に活用されている。さらに集客に繋げられるよう、今後の取組に期待している。

新しい支援を得る取り組み

- ・企業の協賛やサポートを得ることは、企画事業にとってメリットがあるため、今後も新しい支援を得る工夫に努めていただきたい。

（３）施設の利用に関する業務

文化芸術活動の場づくり

- ・県内の文化活動団体に発表の場としてグランシップを活用してもらえよう、空き状況の情報提供をおこなうなど、リピート率を上げる取組に努められている。
- ・昨年もお伝えしたが、アーツカウンシルしずおかと連携する取組も期待している。

国内外との交流促進を図る活動の支援

- ・コロナ禍で施設利用に関しては厳しい状況となったが、積極的に関係機関と連携して連絡会をおこなったり、営業をおこなうなど、前向きな活動に努められている。

デジタル技術等を活用した顧客サービスの向上

- ・デジタル化に対応し、利用者に便利なキャッシュレスやオンライン決済などの環境整備を整え、顧客サービスの向上に努められている。

（４）施設の維持管理に関する業務

安心・安全・快適な施設

- ・利用者の利便性を第一に考え、施設の不具合等を迅速に県に報告し、対応されている。

環境負荷の低減に配慮した施設運営

- ・省エネや経済的なシステムを選択する等、環境負荷の低減に配慮した施設運営をなされている。今後もこの取組を続けられるよう期待する。

社会のデジタル環境に対応できる施設管理

- ・リモート会議やオンライン配信等で活用できる高速光回線貸出サービスを始め、利用者が快適にデジタル環境を使えるよう改善に努められている。県としても全館でデジタル対応可能となる LAN 整備工事をおこなっており、全館に高速光回線を敷設し、安定した環境を今年度中には提供できる予定。今後も財団と連携した利用者サービス向上に取り組んでいく。（県の LAN 整備工事は令和 6 年 1 月末終了）

(5) その他運営に関する業務

賑わいを生み出す取組、施設の有効活用

- ・東静岡地区の賑わいとして、館内の催事に合わせた活用やマルシェなど、広場の活用を積極的におこなっている。広場から館内への誘導など、今後のさらなるPRに期待する。

その他運営に関する業務

- ・施設利用者の利用時間に合わせ、開館時間や退館時間の変更やレストランの営業時間を開演時間に合わせるなど、快適に利用できるよう努力されている。
- ・レストランやケータリング等はコロナの影響を受け、これまで厳しい状況であったが、今後、利用者が以前より増える工夫を期待している。

(6) 運営体制及び組織

組織

- ・職員研修を積極的におこない、文化財団の運営を担う人材育成に努めている。

働きやすい職場づくり

- ・専門性の高い職員を育成するための人事評価制度の導入に努めている。

リスクマネジメント

- ・実践的な防災訓練やコロナ対策の徹底など、危機管理意識を常に持ち、体制強化に努めている。今後も自然災害等、想定されるケースは多々あるため、臨機応変に対応できるよう、継続していただきたい。

安定した財務管理と適切なコスト管理

- ・コロナの影響による収入減や光熱水費、物価高騰による支出増など、厳しい状況下でも常に改善努力をされている。今後は、収益を上げる工夫をされたい。